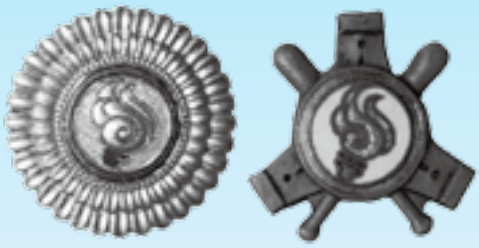
ゆめ半島 千葉国体 2010

国体の記憶 ❻

何もかも特別だったスポーツの祭典



国体出場の記念章。シンボルである炬火（きょか）が刻まれている

石原 利男さん（土屋）

土屋生まれ。昭和22年旧制成田中（現成田高）4年時にエースとして選手権ベスト4進出。早稲田大学で東京六大学野球優勝、日本石油（現ENEOS）で都市対抗野球大会優勝。大学の同期に元巨人の広岡達朗氏、日本石油のチームメイトに同・藤田元司氏（故人）がいた。平成11年～16年成田高校野球部OB会会長、現顧問

スポーツの振興を目的に、昭和21年から毎年開催されている国民スポーツ最大の祭典・国体。その第2回大会に成田中野球部ナインとして出場した。「国体出場、ということになると成田では我々が第一号じゃないかな」。60年以上前の話に思わずほおが緩む。

終戦を迎えた旧制中学2年のとき、野球を始めた。グローブは布切れで作った粗末なもの、バットは恤兵品（じゅうへいひん）（兵隊の慰問用に作られた品）。シューズなどはなく、皆裸足で白球を追い掛ける日々だった。

昭和22年、南関東大会を制し、選手権（夏の甲子園）に連続出場した成田中は、準決勝まで勝ち進み、国体招待チームに。「国体列車」で開催地の石川県金沢市へと向かった。切符もなかなか手に入らない時代に仕立てられた特別列車に、「国体というのは特別なんだ」と強く感じた。

宿舎もまた特別だった。当時、国体の宿舎といえば学校や公共施設、良くて民宿というのが相場だったが、高校野球だけは温泉旅館。それも有名な加賀五郷・粟津温泉の旅館だった。「高校野球が『招待競技』だったからかもしれません。料理も日本海のごちそうがずらり。観光もさせてもらいましたし、本当に『お祭り気分』でした」。

試合も記憶に残るものとなった。夏に延長までもつれこんだ優勝校・小倉中との再戦。兼六園球場に響く大歓声の中、緊迫した投手戦を演じた。敗れはしたものの、無四球・無失策の好ゲームに、1時間5分という最短試合記録もついてきた。

1年半後、千葉県で2度目となる国体が開かれる。成田市は3競技の会場地となった。「宿泊や競技施設の面で成田は充実していると思う。選手の皆さんには、いいお土産を持って帰ってほしいですね。いつの時代でも国体は『特別』なものだと思いますから」。

兼六園・徽軫（ことじ）灯籠で（後列右から5番目が石原さん）

このコーナーに登場してくれる人を募集します。くわしくは広報課（☎20－1503）へ。

編集後記

3月29日は千葉県知事選挙。前回知事選（平成17年3月）での成田市の投票率は43.20%で、県内83市町村区中66位とかなり低い順位です。同年9月に行われ、郵政民営化で注目を集めた衆議院議員小選挙区選挙の60.90%からみると、関心の低さが分かります。3月13日から期日前投票ができますので、棄権せず投票してください。

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年3月15日号 No.1143　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成21年3月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 花崎町760番地　電話22-1111（大代表）
広報なりたは再生紙を使用しています。